

## 幕末明治の写真師列伝 第二百二十四回 宮下欽 その四十二

「五月十八日

一、第九時過大山・武助私用ニ而外出ス、○同第十時頃新田氏来ル、菓子・茶・鮎（註：すし）・牛・酒）出ス、紙取写真致ス、同第十一時半過帰ル、○午後第二時頃与三郎殿私用ニ而外出ス、同第六時頃帰ル、○同第二時過河野氏来ル、先生御帰り哉と被尋候ニ付、御帰り無之旨申候所、即時御帰り、○大山同第七時過帰ル、○同第四時頃宮下○同第二時頃加納氏妻之弟、上方より帰り候旨ニ而来リ、即時帰ル、○同第四時前宮下加納氏へ行、夫方私用を弁シ（註：すまし）、同第五時頃帰ル、○おますとの・新田氏一同浅草町へ行、夜泊ス、○午後第三時過、川口之下女三人ニ而来リ、写真相頼候ニ付致し遣ス、」

「五月十九日 昨夜方雨

一、午後第一時頃おます殿母方御同道ニ而帰り、御同人母方へ菓子・茶出ス、然ル所、明日又十之隠居同道ニ而芝居ニ御出被成度旨ニ付、又御同道ニ而無程浅草町へ御出ニ相成、○同第四時過宮下、安田氏へ行、用事ハ[金子兎角ト引迫ニ付]和泉橋亭売払候方可然旨、松蔵と相談致し候而之事なり、然ル所、安田氏留主ニ付夫方蝮川氏へ行、過日註文之上方四ツ立判三枚持参ス、同氏も留主ニ付足田氏ニ頼置、同第七時過帰ル、○同第三（註：二の間違ひ）時頃上田屋伊右衛門殿より先生・松蔵御兩名ニ而書状来ル、右同人倅栄太郎殿持参ス、為土産菓子一折到来ス、菓子・茶出ス、右書状之意ハ此度大町\*（註：\*は、口を囲む○の印、屋号か？）主人上京ニ付、栄太郎殿同道御頼、当地ニ而当人相応之奉公、\*主人と相談致し世話頼、且勤方年季中ハ[主人之方大切ニ相勤候教示致し呉候様、其上向後ハ]万端共、実子同様ニ無遠慮教示頼度旨之文意なり、栄太郎殿同第三字過帰ル、○箱館三国屋方時候見舞之書状来ル、」

さて、『通天楼日記』にはまだまだ宮下欽の登場する記述は多くあるのだが、それを全て抜き出して、ここで全文紹介するのも紙面の都合もあるので、これ以降の記述はなるべく宮下欽の関係する部分にする。

「五月廿日 晴

一、第六時過宮下、安田氏へ行、和泉之亭義払度旨相頼候、何程ニ而御払可被成哉と相尋候ニ付、世間通例之相場ニ而払度候間、何程位ニ相成可申与申候所、百五拾両之内へ入り可申候、尤当時借居候者共へ相頼、入用無之旨申候ハ、其節売家之札張可申と申候ニ付、先其事ニ凡相極め、同第九時頃帰ル、右普請之入用八拾両一分与懸り居相当内、三拾両ハ旧冬此方方差出シ、二拾両ハ借家之者敷金なり、三拾両一分余ハ安田取替ニ相成居候事故、金百五拾両ニ払候而も、手取込ニ相成候金子ハ九拾九両二分余なり、（後略）」

「五月廿二日 晴

一、第七時半過宮下、蝮川氏へ行候所、昨日（註：昨年之誤り）写候上方写真之義ハ、局之分ハ安料ニ致し候様取極ニ相成居候哉ニ承知致し候が、如何之次第ニ候哉と御座候間、商法ニ致し不苦候御義ニ御座候ハ、不御許容被成下候へ者、御局之写真ハ直下（註：直は値の誤字）ニ而可奉差上口段、当春松三郎方歎願書差出候様ニ心得居候へ共、右御差函、其後有之候様子承り不申候、商方不苦候ハ、一分二朱ツ、にて相納度口旨と心得居候へ共、松三郎留主中之義ニ付、帰国之上委細ニ承り御挨拶可仕と申、夫方中清へ立寄、金子借用致し度旨頼候へ共、甚不都合之旨、更ニ不用候ニ付、無余支帰ル、第十二時前なり、○第九時頃玉松

より金子催促ニ来り候へ共、宮下留主之旨断り候所即時帰ル、○正午過宮下、玉松へ行、金子廿五日迄日延致し帰ル、（後略）」

（註：□は書き損じの文字で、一文字分が墨で黒くなっている）

「五月廿三日 晴

一、第九時頃宮下、蝮子氏へ先生之御印申持参ス、蝮子氏身受書扱所へ差出候請書之請印也、夫方津田氏へ行、同氏病氣之旨ニ付、菓子一折為見舞持参ス、午後第十時前帰ル、（後略）」

「五月廿四日 曇時雨ス

一、午後第六時頃宮下、山田氏へ富岡景色四ツ立判拾九枚註文之分持参ス、同第七時前帰ル、（後略）」

「五月廿六日 晴

一、午後第一時頃、兼而御註文ニ相成候上方景色四ツ立 [半]一枚持参シ事務局へ行候所、小野殿方之御用ニ候へ共、今日ハ出勤無之旨ニ付、右写真蝮川殿へ差出シ、同第五時頃帰ル、○宮下帰り道中清へ立寄、廻り金之台紙二百五拾枚持参ス、代銀百枚ニ付拾八匁（もんめ）五歩之旨なり、（後略）」

「五月廿七日 晴

一、（前略）○昨扱所方宮下ニ印判持、今日第九時ニ罷出候旨申来居候ニ付、右時節ニ宮下扱所へ行候所、早速用事相済、夫方事務局へ行、小野殿ニ面会致し如何様書取可申承り候所、当春相納候博覧会之写真、望人有之候へ共、直（註：値の誤字）段何程ニ相払候得者相当哉弁シ（すまし）兼候間、委細ニ認（したため）差出呉候様頼度旨被申聞候ニ付、当時先生御留主ニ付、門生一同ニ而篤と相談致し候而可申上旨相答、第十二時前帰ル、帰り道中清へ立寄、廻り金之小台 [紙]五百枚酒石酸一斤持参ス、（後略）」

「五月卅一日

一、（前略）○同第九時過宮下事務局へ行、月割上納金来月十日迄日延相頼、午後第一時過帰ル、（後略）」

「六月一日 曇

一、第六時過宮下、蝮子氏へ行、昨日同氏へ遺族写真之上中下見わけ致し、夫方築地西田氏へ行、日外洋人へ見本遣し置、博覧会物品之写真註文之有無沙汰致し、午後第一時前帰ル、（後略）」

「六月三日 曇昨夜方今晚迄雨降

一、第八時前宮下、安田氏へ行、松永町之貸家売払方之相談ニ行候所、兎角不都合之義有之、早速払方ニ不相成、同第十時過帰ル、（後略）」

「六月六日

一、第六時松蔵・宮下兩人ニ而蝮子氏へ行、上京之義相談致し、松蔵右同氏ヲ八時半頃出立ス、宮下夫方廻り道金索（策）致し、第十一時頃帰ル、（後略）」

（※「方」は平仮名の「よ」と「り」の合字）

（森重和雄）